

王 琦 博 士

(1996年10月7日～1998年9月28日滞在)

この度、日本政府（文部省）と中国政府（国家教育委員会）との交換留学生プロジェクトのおかげで、日本文部省の国費外国人研究留学生（博士研究員）として、1996年10月から1998年9月まで、大阪大学理学部附属マイクロ熱研究センターに、2年間留学することができました。当研究センターの熱科学に関する研究には長い歴史があり、阪大独自の研究分野の一つと言えます。熱に関する研究手段として、さまざまな高精度測定装置を開発し、世界の熱科学の三大研究拠点の一つという高い評価を受けています。ここに留学することができ、本当にうれしく思います。

光陰矢の如し。いよいよ留学期間が満了することになりました。本研究センターが年に一度出している「阪大化学熱学レポート」に、外国研究者として滞在印象記を書くことになりました。

2年間といっても、留学としては長い期間とは言えないでしょう。最初、研究センターに入った頃は、熱に関係する研究にはあまり経験がなかったので、ちょっと心配していました。研究センターで、熱容量の測り方をはじめ、色々な熱分析や測定装置の作り方などを習得してきました。研究テーマとしては、熱測定を中心にさまざまな物質の熱容量と相転移、例えば、ニッケル錯体における構造異性体間の構造相転移、ハロゲン架橋一次元複核白金錯体の混合原子価現象や、三重らせん構造の多糖化合物のシゾフィラン重水溶液の秩序・無秩序転移及び磁性錯体における極低温でのスピン間相互作用などを研究しました。測定には、広い温度領域で測定できる汎用カロリメーターから、微小試料でも測れる感度の高いマイクロカロリメータ、0.07 Kまで冷却できる希釈冷凍機付き極低温用カロリメータまで幅広い測定装置を使わせていただいて、本当にいい勉強になりました。これは私の今後の研究活動に対して、非常に重要だと思っています。

留学生活を通して、アカデミックな面だけでなく、日本の社会に接触することもできました。留学している2年間に、各地を見学して、日本の生活も感じました。日本は高度経済成長を遂げた社会として、高層ビルばかりではなく、美しい田園風景、さまざまな文化や伝承も残っていました。その中で一番印象深いのは全国各地の特色ある祭りです。真夏になると、ほぼ毎日行われていました。人々が楽しんで参加しています。妻も息子もゆかたを着たり、盆踊りを踊ったりして、楽しんでいました。もう一つ印象深いのは日本の国民の勤勉な精神と、人々が自分の仕事に対して非常に真剣な態度であるということです。これは電車が運行時刻表や停車位置などを驚くほど正確に守ることからかいまみることができるでしょう。

今回、日本に留学し、日本の教育、研究を肌で感じて、教育と研究の現状をより

深く理解できました。日本政府が大学教育と基礎科学の研究を重視すること、また、教育、研究のための経費を多大に投ずることに対して、私は深い印象を受けました。

休暇の際には、徂徠先生のご招待で、日本の伝統的芸術である文楽を鑑賞したり、日本料理を食べたり、花火を見たりして、日本的な生活を体験しました。とても楽しかったです。

最後に、この2年間全てにわたり丁寧にご指導くださいましたマイクロ熱研究センター長の徂徠道夫教授に厚くお礼申し上げます。また、数多くのご助言をいただきました本研究センターの齋藤一弥助教授、職員の方々、特に大変お世話になりました共同研究者の宮崎裕司博士、山村泰久博士、及び学生の皆さんに、深く感謝しております。

(王 琦 記)

